

議題	第 17 回運営推進会議		
日時	2026 年 8 月 19 日（水） 10:30～11:15		
場所	デイサービス山風木		
出席者	(順不同敬称略) 出席者一覧 ご家族: N 様ご家族 O 様ご家族 H 様ご家族 S 様ご家族 行政・地域: T(三島市地域包括支援センターみしま) 統括 W(グループ統括) U(事業所スタッフ・進行) NM(山風木スタッフ)		
会議の詳細			
運営推進会議 議事録(山風木・認知症対応型通所介護)			
1. 開会・事業所からの報告 統括 W 本日の趣旨説明および挨拶。年 2 回の地域密着型事業所としての意見交換・情報共有の場である旨を説明。			
2. 事業所概要・現状報告: 別紙資料を基に説明			
3取り組み・活動: 写真スライドをもとに説明			
4地域の課題意識:			
独居高齢者や老老介護、遠方(石垣島等)にキーパーソンがいるケース、他疾患・持病の同時管理、BPSD への対応といった課題を整理し、チームケアで支援する重要性を提示。			
5 出席者ごとの発言内容(家庭での様子・悩み・意見交換)			
N 様ご家族			
家庭での様子: 本人は膝の痛みがあり活動量が低下している。朝の気分でデイに行くのを渋ることもあるが、お迎えが来るとスムーズにでかける。			
防犯・生活: 97 歳と高齢だが「自分是可以する」と思っている。電話は外し、お風呂は湯船に浸かる程度。防犯面や若い訪問者への不安があり、屋内向けカメラは躊躇するが抑止力としての屋外カメラには関心がある。			
O 様ご家族			
言葉・コミュニケーション: 言葉の意味の理解が難しく、意思疎通に苦労している。行動の変化: 食事前にずっとテ			

ーブルで待つ、お風呂上がりに脱衣所で立ち尽くす、窓や紙を締め切りたがるなどの行動が見られる。

家庭での課題: コンセント類を抜いてしまうため業者に頼んで抜けない仕様に変更した。夜間の尿もれに気づかずびしょびしょのまま過ごすことがあり対応に苦慮している。ショートステイやデイの利用時のみホッとできる時間がある。

防犯・見守り: 自分が倒れた際に夫が助けを呼べない不安があり、見守りカメラや安否確認の手段に関心がある。

H 様ご家族

家庭での様子: 要介護3 になってから行動が変化。以前は富士山を見るために1日18回ほど外出していたが、現在は1回行かない日もある。誘っても気分次第で動かないことがある。病院でのトラブル・サービス導入: 以前、病院で待ちきれずに自宅まで歩いて帰ろうとし、途中で倒れて救急車騒ぎになった経験がある。最近、訪問看護を週1回導入し始めたことで専門職に関わってもらえ心強く感じている。

行政への提案: 認知症ガイドブック(ケアパス)の存在を知らず、近所の人に相談してようやく救急時や申請の流れが分かった。広報紙のように全戸配布してもらえると、早期に相談窓口につながる人が増えるのではないかな。

S 様ご家族

父(ご利用者)の様子: 1人暮らし。食が細く痩せてしまい、好きなもの(はんぺん、佃煮など)ばかり食べる。紙にメモを貼るなど工夫しているが忘れがち。耳が遠く話が食い違うこともある。

得意なこと・地域とのつながり: 植物が非常に好きで図鑑を作ったりドクダミスプレー作りをしてデイで活躍している。地域の老人福祉センターでカラオケを楽しんだり、近所や組長さん、昔からの知り合いが気にかけてくれており、見守りの体制ができています。

地域包括支援センターみしま T 様

認知症ガイドブック(ケアパス)の紹介: 今年度版のガイドブックや認知症カフェ、家族会の案内。

各種制度・施策の案内: 徘徊 SOS ネットワーク・見守りシール事業(QRコードで警察等と情報共有)。個人賠償責任保険制度とのセット支援についての説明。オレンジリングの会(家族会)および「街なかホットサロン」で開催している本人ミーティングの紹介。

3. まとめ・意見交換

地域包括・行政制度の周知について:

H様ご家族からの「ガイドブック全戸配布」の提案に対し、T様・W様より「早期相談や予防の観点、家族世代への

情報提供として非常に貴重なご意見」として受け止め、今後の参考とすることとなった。

専門職連携と見守り:独居・老老介護における見守りカメラの活用事例、訪問看護やショートステイなどデイサービス以外の外部サービスを組み合わせた「チームケア」の重要性を再確認した。

次回開催: 半年後(予定)